

令和7年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立第三葛西小学校

校長名 吉野 麻哉子

名称:

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「智」 深く考え、すすんで実行する子 ・「仁」 思いやりがある子 ・「勇」 明るいたくましい子
---------	--

国が示す総合的な学習の時間の目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

学校の総合的な学習の時間の目標

- 1 探求的な学習の過程では、学校図書館やインターネットを有効に活用する能力を身に付ける。
- 2 課題設定、情報の収集、整理、分析、表現の過程では、話し合い活動を重視し、受信者を意識した伝え合いの能力を身に付ける
- 3 積極的に社会に参画する過程では、地域の一員として行事に参加するとともに、我が町江戸川を愛する心情を身に付ける。

育てようとする資質や能力及び態度

知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・課題設定のための豊富な経験。 ・学校図書館やインターネットなどを活用する技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に必要な基本的な知識。 ・課題解決に必要な情報収集、整理、分析する技能。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・他教科や日常生活で得た知識の活用。 ・自身の思いを伝えるための言語を中心とした表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ・多方面から比較したり、分析したりする思考力。 ・受信者により的確に伝わる様々なメディアによる表現力。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
<ul style="list-style-type: none"> ・身のまわりから課題を見いだす態度。 ・身に付けた知識や技能を実生活で生かそうとする態度 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい自分になるための課題を見いだす態度。 ・社会の役に立とうとすすんで行動する態度。
第3・4学年	第5・6学年

内容	学習対象	学習事項
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・生命と産業 ・発展してゆく地域社会 ・授業用タブレット 	<ul style="list-style-type: none"> ・カイコを飼育したり、小松菜を栽培したりする。 ・自分たちの暮らす葛西地区や江戸川区のよさを知る ・ローマ字打ちを習得し、学習に活用する。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ人との関わり ・日本の伝統文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害について知る。特別支援学級との交流。 ・日本の伝統文化にはどのようなものがあるか。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・米作りと日本の食 ・自然を生かした暮らし ・学校のためにできること 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲を育てる苦労や知恵 ・自然に触れるマナーやルールと自然を尊重し大切に ・学年活動や行事を通して、自ら考え学びあい、視野を
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日光の伝統文化とその継承に力を注 ・学校のためにできること ・自己の生き方と将来への展望 	<ul style="list-style-type: none"> ・日光や地域を中心とした、日本の伝統や文化とその ・学年活動や行事を通して、自ら考え学びあい、視野を ・自分自身のよさへの気付きと将来展望

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は地域、4年生は障害教育理解、5年生は自然環境、6年生は卒業研究とする。 ・年間35時間程度とする。 ・学年で年間2～3テーマの取組を基本とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識を繋げ新たな課題を産み出す支援 ・児童の深い見取りによる個に応じた支援の重視 ・児童が五感を働かせて試行錯誤できる体験活動の工夫 ・言語活動を適切に位置付けた、体験の意味の自覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部を中心とした指導とサポートの体制を構築する ・地域の人材開拓と人材バンクの登録や効果的な運用 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価につながるワークシートの導入とその分析。 ・人との関わりを通じた活動状況や気付きの重視。